平成２５年度第１回新潟市男女平等教育推進研究会会議概要

１　日　時　　平成２５年１１月２２日（金）１５：００～１６：３０

２　場　所　　新潟市役所白山浦庁舎２号棟４０２会議室

３　出席者

（１）委　員（五十音順）

岩﨑　正法　　亀田中学校教諭
大浦　容子　　新潟大学教育学部教授
野島　晶子　　新潟市男女共同参画課長
樋口　玲子　　にいがた女性会議
宮薗　　衛　　新潟大学教育学部教授
若山　大輔　　横越小学校教諭
脇野　範子　　早通小学校教諭

（２）事務局

佐藤　岩夫　　学校支援課長補佐
菱田　由美　　学校支援課指導主事

４　会議内容

（１）開　会

委員の皆様のお力で毎年男女平等教育学習資料を見直し，時代の変化に対応した学習資料・手引きを作っていただきありがとうございます。おかげさまで，各学校では学習資料を活用した指導がなされ，児童生徒が男女平等についての理解を深めることができていると受け止めております。本年度も，新潟市の小中学校における男女平等教育の一層の推進に，格別なご尽力を賜りますようよろしくお願いします。

（２）会長・副会長選出

会　長　大浦　容子　　新潟大学教育学部教授
副会長　宮薗　　衛　　新潟大学教育学部教授

（３）あいさつ

会　長

この推進研究委員会には一番最初から入っておりましたので，このメンバーの中では一

番古くなってしまいました。大学で学生の教育に当たっていて，男女にそれぞれ別のことを期待するということがないようにしています。

幸い，男子学生も女子学生も同じように元気で活発に活動してくれていますのでうれしく思っています。今度ともよろしくお願いします。

副　会　長

大学で社会科教育を担当しております。先週，授業分析の場面で，今から２０年ほど前の授業記録を読み取っていたら，男女平等の授業を扱った最後のところに，ある男子生徒が「男性も家に入って家事をやればいいんじゃないの」と言ったら「一同笑い」と，記録にありました。そういう時代だったのだろうなと思います。

男女平等教育学習資料について，その時代時代の中で考えてきました。最初作ったときの学習資料が古くなったというのは，今そこで学ぶ生徒たちの意識がその先へ行っているということだと思います。でも，また，これからもその時代時代の中で学ぶと思いますので，学習資料がますますよくなるように改善をしていきたいと思っています。

（４）報　告（事務局）

①　平成２４年度男女平等教育学習資料活用状況調査の結果について

◇　学習資料を活用した学校の割合

小学校３年生　　９５．６％

小学校６年生　　９８．２％

中学校２年生　　７９．３％

新潟市男女共同参画行動計画における目標値（小学校１００％，中学校９０％）に向けて努力している。小学校については，学習資料を活用していない学校が数校だったので個別に活用をお願いした。

◇　学校の年間指導計画への位置付けについて

小学校と中学校とも，年間指導計画へ位置付けした学校が年々増えている。活用状況と年間指導計画への位置付けには相関があるので，校長会等に年間指導計画への位置付けをお願いしていく。

◇　保護者に対する情報提供・啓発について

学習資料の活用を通して子どもたちの教育は進んだが，学習後に家庭へ学習資料を持ち帰って話をする，学級懇談会の話題とする等，保護者に対する情報提供・啓発についてはなかなか有効な手立てがない。

②「男女平等教育推進研究会」のこれまでの活動について

担当者を集めて研修会をやったということもあるし，実践発表をしたという年もあった。ここのところは，学習資料の充実を図っている。

（５）協　議（委員の発言要旨）

①　小学校３年生「学習資料」を用いた学習について

◇　「家のしごとはだれがやるの」を学習したことによって，家族の様子が分かってよかった。ただ，学習の後でも「お父さんが力仕事，先たくはお母さんと子ども」と考えている子どもが３割もいた。地域的なこともあるかもしれないが，３年生の学習の見直しが必要かもしれない。

◇　絵も見やすいし，それぞれねらいもしっかりしていて使いやすいが，生活経験を問うような発問があってもいい。家の中でこういう仕事は男の人がやる，こういう仕事は女の人がやるという生活経験をしている子どもたちがかなりいる場合，家庭の中で役割についても取り上げていくと，男女平等の意識が浸透していくかもしれない。

◇　３年生は，役割意識に気づく場面がたくさんあるので扱いやすいという意見があった。最後に，「これから皆さんは何ができますか」と問うと，子どもたちが具体的なことを言っていた。実践的な発問の方が「自分の力を誰かのために…」と考えやすいのかもしれない。

◇　小学校１，２年生の生活科では，家族とのかかわりとか役割とか学習内容になっている。そういう学習と３年生の学習資料の活用をつなげていけないか。生活科は子どもたちが自分たちの生活を考えて自立していく教科だから，ちょうどいいつながりになる。

◇　道徳の学習にして，一つの大単元として，３時間で実施すると，前時を振り返るときにつながりにくい。

◇　内容的には１ページと４ページがつながり，２ページと３ページがつながる。レイアウトはこのままで，手引きの順番を変えるといいかもしれない。

◇　内容を分断しないで，遊びの場面と掃除の場面というように場面設定が二つあると捉え，見開きで，しっかり考えていくとよい。

＊　活用の手引きの順番を使いやすいように改善する

②　小学校６年生「学習資料」を用いた学習

◇　６年生の学習資料が使いやすかった。学級で男女に分かれてグループ化してしまうことが心配で実践した。ねらいにあるように，男女協力して助け合うという意味ですごくよかった。イメージが浮かぶ場面設定で学級の実態に合っていた。学習後の学校生活で同様な問題場面が起こっても，この学習を思い出そうって言うだけで子どもたちは自分の本当の気持ちを考えて生活できるようになった。

◇「ひろ子さんと同じような経験はありませんか」と発問したら，学校だけでなく，家で実は…ということも出てきたので，生の声を聞けるような学習の流れになっているのでよいという意見があった。

◇「自分らしく生きる」という学習で，家の中で「あなたは女の子なんだから」という言

葉が出てきたので，指導者は，学校だけではなくて家の中のことでも話をしてもいいことにした。子どもの生活経験からの気づきも取り上げらることができる。

◇　自分の立場が明確になる，子どもたちの中で葛藤が起きる，自分だったらどうしようと考えられる学習資料になっているので，子どもに考えさせるのに適している。気持ちを言葉にすることによって，自分を改善しようとする意見も出てきたので，生活経験をもっと出した方がいいという意見もあった。

③　中学校２年生「学習資料」を用いた学習

◇　紹介されているデータが古い。使っている指導者としてはデータが新しい方が説得力があるので，最新のデータに差し替える。

◇　高齢化が進む等，社会の変化で，母親がずっと家にいるという家庭の割合は減ってきて，共働きの家庭では，子どもたちが協力しているという状況がある。

◇　今までずっと「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」ということに対して，「反対だ・どちらかというと反対だ」という人たちが増えてきていたのに，東日本大震災の後で初めて逆転した。また元に戻ってしまったという変化が初めてあってちょっとした話題になった。

◇　人間関係を形成していく能力やキャリア形成能力というのは，やっぱり男女が協力していかなければならない。人間関係を作るにも男だけ女だけではなく協力しなければいけないので，そういった能力を付けさせることからも，学校の中でキャリア教育を意識した授業をしていかなければならないなと思う。

◇　学校便りの後半で校長先生が男女平等についてコラム的に書いた。

④　データの差し替えについて

◇　新潟市でも「男女共同参画に関する基礎調査」をやっていると思うが，同じような項目もあるので，載せられるか検討してほしい。

◇　「日本の夫婦の生活時間」のデータで，共働き世帯と書いてあるデータは全体を示している。グラフをぱっと見たときに，共働き世帯と書いてある方がフルタイムで働いている人で，２番目にある「共働き世帯のうち妻の就業時間が３５時間以上」の人たちはパートタイムで働いているのかなと思った。パートタイムで働く人とフルタイムで働く人とが一目で分かるような資料にしてほしい。

＊　最新のデータに差し替えていく

⑤　これからの活動について

◇　活動の歴史を見ると，平成１７年を最後に実践発表会は行われていない。８年以上，研究の発表とか，こういう事例でやってみたらどうでしょうという提案がされていないことになる。今の時代に見合う，誰が見ても男女平等教育は必要だという意識が学

校の職員に行き渡るために，何らかの実践発表会なり研修会なりをもった方がいいのではないか。

◇　今から急にというわけにはいかないが，パネルディスカッションとかテーマを決めてグループディスカッションの中で最後に講師先生からまとめてもらうとか，負担がかからない形でできないか。それによって直接働き掛けることができるので，やらなくてはいけないんだというメッセージが伝わりやすい。

◇　何人も出してくれというのは現実的に厳しい。各学校で一人代表で出てもらって，参加した人が学校に帰った後確実に伝達するという流れにすれば可能かなと思う。

◇　人権というのは社会を巻き込みながら学校もやるというのは見えているが，男女平等教育は社会と一緒にやるという方向がない。

◇　指導する先生方が，実際の社会とのつながりの中で男女平等は子どもたちに伝えていくべきことだということを実感すると，数値的にも上乗せできるのではないか。教育研究者ではなくても，男女共同参画についてあちこちで講演されている人に，実社会の中の男女共同参画の推進と学校教育の中での推進というつながりについて講演をお願いするのはどうか。

◇　身近で活動している人が，刺激的で心に響くようなお話をしてくださるとよい。

◇　今学習していることが世の中にどうかかわってくるのか，世の中ではこうなっているというのを聞くのも大切なことだから，例えば学校でやるんだったという視点で話してもらうのもよい。

◇　新潟市で活躍している人，実際に学習資料で紹介されている人が実際に壇上で話しくださるのは身近でよいのかなと思う。新潟市らしさを出していきたい。

◇　子どもたちが話を聞くのと，学習事例として教員が話を聞くのとでは違ってくる。いろいろな可能性があるということで，第２回の推進研究会で話し合うことにする。

＊　講演会，実践発表，パネルディスカッションなど，いくつかプランについて第２回の推進研究会で検討する。

５　閉　会